

令和2年度 磐田市立豊岡南小学校 学校評価書

重点	評価指標	目標値	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
進んで学ぼう	授業の内容がよく分かる。	90	A	○「授業内容がよく分かる」児童は96.4%であり、目標を達成することができた。道徳科を窓口に「主体的に考え、共によりよく生きる子～学び手の視点に立った道徳科の授業の充実～」をテーマに授業改善に取り組んできた成果が表れていると考える。今後も、子供たちが学習内容を「自分事」としてとらえ、「学びの実感」を味わいながら、自分自身の「学びの質」を高めていくことができる授業づくりに努めていきたい。 ※「進んで意見や考えを発表する」の項目では、児童の数値は向上している。しかし、コロナ禍の中で、対話的な学習や体験的な学習が思うようにできないという制約があったため、教師自身の評価は昨年度を大きく下回っている。交流の場を工夫していったり、ICT機器を使った交流を取り入れたりするなどして、学びを充実させていきたい。	・GIGAスクール構想により、クロームブックやパッドが導入されることで、個別最適化が図られたり不登校の児童の学習が進められることが期待される。しかし、書くことも大事であり、バランスよく進めてほしい。 ・学校は、コロナ禍の中、様々な工夫をしている。子供たちにも考えさせるよい機会となるとよい。
	進んで質問したり調べたりする。	80	A		
	進んで読書をする。	80	B		
	毎日、宿題や予習・復習の自主学習、読書などの家庭学習に取り組んでいる。(学年×10分+10分)	85	B		
	進んで自分の意見や考えを発言する。	80	B		
思いやりのものとう	学校が楽しいと感じている。	90	A	○どの項目も目標値に達成している。さらに、児童の評価では、すべて昨年度の数値を上回っている。特に、「進んであいさつをする」(児童)は、96.4%という高い数値であった。道徳授業の充実、「学級向上プロジェクト」やコロナ禍での新しい生活様式の徹底などの効果が表れている。 ○「あいさつ」については、年度当初は、集団の中にいると声を返さない子もいるという状況で課題であった。コロナ禍で大きな声を出せないことで、「ストップ会釈」を合言葉に掲げた会釈指導に切り替えた指導が奏功し、会釈だけでなく進んで大きな声が出せるようになってきた。※「学校が楽しい」子ども90%を超えているが、「楽しくない」と回答した子ども28人いる。児童理解を深め、その子どもも含めて、一人ひとりに寄り添った支援に努めていきたい。	・学校が楽しい子が多いのはよい。「楽しくない」と答えた子ども、元気に学校に登校できるように気を配ってもらいたい。 ・学校でのあいさつが向上していることに合わせて、地域でのあいさつもよくなっていることが分かる。引き続き、力を入れていってほしい。
	進んであいさつをする。	80	A		
	友達を思いやった「ふわふわ言葉」をつかっている。	85	A		
	学級(学校)は、互いにルールを守り、協力して生活している。	85	B		
	自分と異なる意見や考えを認めている。	90	B		
元気づく体ろう	めあてをもって進んで運動に取り組んでいる。	85	B	○児童の数値は、徳の部と同様、すべての項目で目標値を達成するとともに昨年度の数値を上回った。コロナ感染対策で運動に制限があった中であつたが、一人一人に明確な目標を持たせ、授業を工夫してきた。 ○清掃では、「学校応援団」の方たちが立ち上げた清掃ボランティア活動が軌道に乗りつつある。消毒作業だけでなく児童への清掃指導も積極的に行っている。その成果が表れている。 ※新体力テストの記録が警周平均を下回っている種目が多い。また、持参米飯の量が基準量より少ない子どもが多いという調査結果が出ている。体力向上に向けた具体的な手立てをとったり食と健康への意識を高めたりしていきたい。	・学校応援団はとても有意義な取り組みである。保護者だけでなく、地域人材も参加できるように協力していきたい。 ・コロナ禍ではあるが、防災・防犯も含め、命を守ることにについては、抜かりのないよう取り組んでほしい。
	早寝・早起きをしている。	80	B		
	自分の体のことを考えて食べている。	85	A		
	廊下や階段は右側を歩いている。	85	B		
	清掃に一生懸命取り組んでいる。	90	A		
その他	夢や目標に向かって頑張っている。	85	A	○「夢や目標に向かって頑張っている。」児童は、93.6%と大幅に向上した。子供たちが夢(目標)をもち、未来に向かってすくすくと成長する基盤となる道徳性を養うために、本年も道徳科を中心に学校教育全体を通じて道徳教育の充実を図ってきた。ここ何年かの統的な取り組みが、数値に表れている。 ○「先生は子供のことを理解して指導に当たっている」と答えた児童が95%、保護者は、97.6%であった。一人を全職員で支援するというスタンスで、各職員がコミュニケーションを図り、情報共有し、深い児童理解と児童の思いに寄り添う支援に努めてきたことが評価につながったと考えられる。これからも、教師と児童、児童同士の信頼関係の構築を大切にしながら、個々の良さを引き出して自己肯定感を高めていくことができるようにしていきたい。 ※このアンケートの項目にはないが、あきらめずに頑張ることや嫌なことから逃げないでがまんすること、よりよく考え自ら課題を乗り越えようとする等が本校児童の課題となっている。困難な状況にもたくましく適応していく力や柔軟に対応する力といった「たくましさ」と「しなやかさ」を身に付けた子を育てていくこと力を入れていきたい。	・感染症拡大予防のため学習活動や行事等が変更になることが多かったと思うが、豊岡北小と連携をとって大きな違い生まれないように進めてほしい。 ・端末の使用については、学校だけでなく保護者も学ぶ必要がある。学校・家庭・地域で連携をとりながら進めていくことが大切である。
	中学校での学習や生活を楽しみにしている。(6年)	90	B		
	道徳の授業が楽しい。	90	A		
	学校に相談できる友達や先生がいる。	90	B		
	先生は子供のことを理解して指導に当たっている。	90	A		
	農作物を育てる体験やひろせ学習を通して、地域の歴史や自然、産業について関心がある。	85	B		
	学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。(保護者)	90	B		
	豊岡南小学校は、応援しがいのある学校である。(保護者)	90	A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、学校運営協議会の回数を減らし、授業参観も中止とした。運動会等の学校行事も参観を遠慮していただいた。そのため、協議会の中で、スライドや紙面で学校の教育活動の様子や課題を説明した。学校が、出来る限りの感染症対策を施し、教育活動の価値や必要性を問い直し、工夫を凝らしながら学びの充実を図ってきたことやその成果について理解を得ることができた。学校関係者の意見やアドバイスを受け、新しい生活様式に順応しながら、教育活動の本質や不易と流行を見極めて改善を図っていくとともに、GIGAスクール構想などの新しい教育の流れを積極的に取り入れ、勢いと潤いのある学校を目指していきたいと意を新たにすることができた。